

## 小学部6年生の修学旅行に行ってきました。！

先週、小学部6年生の修学旅行に行ってきました。病気や怪我もなく、有意義な学習ができました。朝、日本文化センターに、遅刻する子どももなく集合し、クラスごとに分かれ、茶道体験と日本文化センターの見学を行いました。文化センターでは、日系移民の先人たちの苦労が偲ばれる展示物を見ることができました。その苦労を感じるとともに、先人たちの苦労の上に現在があることを痛感し、感謝の気持ちで一杯になりました。その後の茶道体験では、貴重な体験ができました。指導していただいた方々が洋服だったので、やや奇妙な感じがしましたが、礼儀作法などとても勉強になりました。その後、プランテーション・ビレッジに移動し昼食を食べました。その量の多さに驚きながら子どもたちと楽しくとることができました。昼食後、ガイドの説明で当時の家屋を見てきました。丁寧な説明で、やや時間が超過しましたが、年代ごとの家屋の変化や当時の待遇の違いなどを肌で感じる事ができました。最後にミズーリー号の見学をしました。子どもたちは、事前学習もしていましたが、実物を見学することで学習内容を深めることができたと思います。日本の特攻隊の飛行機の衝突跡や降伏文書調印の場所、またそれにまつわる話など学校では学習できないこともたくさん経験できました。学習したことは、勿論ですが、それと同時に子どもたち同士が学校を離れ、バスの中で楽しく語り、一緒に活動できたことを良い思い出にしてくれることを望んでいます。



## ハロウィーンに思うこと



スーパーや町に出かけると、ハロウィーンの準備で盛り上がってきているのを感じます。大きなカボチャが1ドルぐらいで売っているのを見て驚きました。日本で、Jack-o'-Lantern 作りをした時、独特のオレンジ色のカボチャが手に入りやすく、結構な値段を取られたのを覚えています。最近、日本でも一般的になってきているハロウィーンですが、日本では、まだ大人が中心です。聞くところによると、ここアメリカでは、子どもから大人まで仮装など盛り上がるそうですから大いに期待しています。みんなで楽しむ行事なんですね。まさにアメリカ的な行事ですね。元々は、収穫に感謝すると共に、天変地異の起こりやすいこの時期に、祖先のことを敬う風習だと聞きました。その由来も大切ですが、一番は楽しむことですね。各ご家庭で楽しい時間を過ごされることを期待しています。

## 素敵な作文を紹介します。

困難を乗り越えて、お互いを励ましあいながら迎えた文化祭（中略）こうした日本独自の学校体制に触れ、団体を行動することの意義を見つける機会を補習校は与えているのです。

僕たちはアメリカに住んでいても完全なアメリカ人にはなれず、日本語を話せても完璧な日本人ではない、とても中途半端な存在です。先生はその中途半端な僕たちの存在を、逆にポジティブな存在としてとらえる事を教えてくださいました。現地校との両立でたいへんな思いをしているのは、私だけじゃない。みんなも同じなんだ。私だけなんてずっと思っていたけど、それは違う。みんな一緒にがんばって勉強しに来ているんだ。それから毎週土曜日、みんなと日本のテレビや音楽などの雑談をするのが楽しくなってきました。どういうわけか、勉強ももっとがんばるようになりました。

～海外子女教育2009年1月号特集「補習授業校の思い出」～

とても素敵な作文だと思います。私も、本校の子どもたちは宝物のような貴重な存在だと思います。これから世界で活躍する人材になれると信じています。しかし、日々の努力は大変だと思います。そんな時は、もう一度仲間の存在を思い出させたり、家族で支えてやることも必要ですね。